

向陽中学校学校だより



# 創造陽躍



☆目指す学校像☆

誰もが安心して過ごせる学校

☆目指す生徒像☆

自分で考え行動できる生徒

【学校教育目標】

自律・貢献・共生

所沢市立向陽中学校

所沢市向陽町2124 Tel04-2923-7201

令和3年度第11号

1月11日(火)

## 人を信じることが自分の自信になる

校長 沼田 芳行

新しい年を迎えました。本年も皆様にとって素晴らしい年になりますよう祈念いたします。また、新型コロナウイルスが一向に終着を見せない中、感染予防に心がけ、新たな年の教育活動を進めてまいります。本年も本校の教育活動にご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今年の冬休みは暦の上では、17日間というロングランとなりました。「1年の計は元旦にあり」というように、皆さんも「今年はこんな年に！」など、誓いを立てたのではないかと思います。今は「無病息災」を願わざにはいられません。このパンデミックを通して、我々がこの2年余りで学んできたこと、この2年で忘れかけてしまったこと、この2年があったからリメイクすることができたこと、そんなことを整理しながら、私自身、新しい年の願いを立ててみたところです。「みんなの笑顔があふれる学校になりますように」

年頭にあたり、児童精神科医・佐々木正美先生のご著書『子どもが喜ぶことだけすればいい』(ポプラ社)から、そのお言葉を紹介させていただきます。

何かができるということは、残念ながら人間が生きていくうえでの自信にはなりません。このことはよく知っていただかなければなりません。

人間というのは、人を信じることができる時に自信になるわけです。これは心理学者のエリック・H・エリクソンが常々指摘したことです。人を信じることなしに、自分を信じることはできません。だから自信を持っている人というのは、何かがよくできるというより、人を信じができる人なのです。人を信じができる人というのは、自分を信じてくれる人がいる人なのです。

新しい学習指導要領が施行され、1年を経過します。子どもたちが「自ら進めていく学び」の面白さをこれまで以上に、各教科で年間に配置された学習単元の中から1~3取り入れてみた1年です。これまでの学校の学びは「教わる」ことが中心でした。その教わることが中心の学びに「自分で学習計画を進めてみる」をこれまで以上に取り入れるようになったということです。各教科はもちろんのこと、各学年の総合的な学習の時間では、今年から使えるようになった一人1台のタブレット端末を活用して進めてみました。タブレット端末を使うと、各自の異なる学びが可視化されます。これまでの一斉に学んでいるようで、個に閉じていた学びが、一人ひとりがそれぞれ異なる学びをしているようで、実はその可視化によって、他者に開かれた学びとなるのです。個に帰すことが実は協働を支えます。他者と協力して学ぶ学び方を覚えると、大人になって様々な人たちと協力して大きな仕事ができるようになります。変化する社会に対応するには教えてもらうだけでなく、自分の経験を学びに転換して自分を変えていく力を持つということです。



幸多き一年でありますよう  
心よりお祈り申し上げます